

令和元年6月17日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13192

研究課題名（和文）近代日本における将棋と文学の関係の総合的研究

研究課題名（英文）Relation between chess and literature in modern Japan

研究代表者

小谷 瑛輔 (KOTANI, Eisuke)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：10753618

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：近代において、将棋と文学は密接に関わりあいながら展開してきた。本研究では、その様相を具体的に解き明かし、データベースや論集にまとめた。一つ目は、小説という近代的な新しい概念が将棋の比喻によって誕生し、その後も文学の概念に影響を与えてきたこと。二つ目は、新聞・雑誌メディアの発展において将棋と文学がともに重要なコンテンツであったということ。三つ目は、文壇の人的ネットワークにおいて将棋が大きな役割を果たしてきたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

将棋と文学やメディアとの関係について、総目次や出来事などの基礎情報を索引や一覧にまとめた各種データベースを集めた「将棋と文学研究のための基本データ」であり、ホームページ上に公開した。これは今後このテーマで研究に取り組む全ての人にとって基礎的なデータとなるだろう。

研究成果はシンポジウムおよび論集でも公開し、各種メディアで報道されるなど、日本文学を考える上で将棋という視座の重要性を認知させるものとなった。論集は、その後の関連研究の出発点となるものとしてリポジトリに公開した。

研究成果の概要（英文）：My major research interest is relation between Japanese chess and literature.

I and research collaborators clarified it concretely and made several databases and an thesis.

First, "shosetsu", which is modern new concept about novel, was born by the metaphor of Japanese chess, and the metaphor has continued to influence "shosetsu". Second, Both Japanese chess and novel were important contents in the development of newspaper and magazine. Third, Japanese chess has played a important role in human relations and network in the literary culture.

研究分野：日本文学

キーワード：将棋 文学 メディア 新聞 雑誌 近代 小説 文壇

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

文学の遊戯性、あるいは文学とゲームの関わりについては、西洋文学においては古くより議論されてきたが、日本の近代文学の遊戯との関わりについては従来手薄であった。特に、将棋は近代文学の黎明より、あるいは以前より深く関わってきたにもかかわらず、その関係を歴史的に問うた研究はなかった。

研究代表者は、本研究課題開始以前より将棋と文学の関わりに注目してきたが、その中で、たとえば各作家の全書誌から漏れている作品が将棋雑誌に複数存在することや、将棋関係メディアなど、文学研究場の外で近代文学と将棋との関わりについての知見が蓄積されてきたことの情報を集めてきた。

2. 研究の目的

日本で小説理念を初めて提唱した坪内逍遙「小説神髓」以来、文学と将棋は様々な形で関わってきたが、本研究は、その歴史的な経緯を資料に基づいて実証し、日本の近代文学と将棋の関わりを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

文学研究者だけでなく、歴史研究者や将棋界関係者など、それぞれの分野における知的蓄積を持つ有識者に声を掛けて研究会を開催し、蓄積した情報を利用しやすいデータベース化することを通じて、将棋と文学の関係を明らかにするための人的・知的ネットワークを構築する。また、研究会において様々な視角からの研究発表を行い、また有識者に依頼し、その都度情報交換や議論を進めていく。

実際には、2ヶ月に1度のペースで東京において研究会を開催し、毎度20名程度の有識者の参加を得て、それぞれの会ごとに設定されたテーマに関して報告とディスカッションを行った。

4. 研究成果

現代メディアの中の将棋表象、近代メディアの中の将棋表象、文学者の文章内での言及や将棋の実践等、多様な接点において将棋と文学が関わってきたことを、研究会のメンバーとともに明らかにし、その成果を「将棋と文学シンポジウム」(2019年1月5日～6日)において公開するとともに、論集『将棋と文学スタディーズ』を刊行し、同論集はリポジトリでも公開した。論集に収録した論考は下記の通りである。

- 小谷瑛輔「文学と将棋は似ているか？」
- 小笠原輝「メディアが発信してきた「将棋めし」と「観る将棋ファン」
- 椎名秀明「IT進展による新しいメディアと、将棋とファンとの関係性の変遷」
- 瀬尾祐一「『稽古事』から「興行」へ？—将棋と文学の出会わない雑誌としての『将棋新報』
- 矢口貢大「始発期『将棋世界』と作家たち」
- 山口恭徳「新聞将棋の始まりから発展へ」
- 西井弥生子「復刻 菊池寛将棋関連文章」
- 本多俊介「坂口安吾はなぜ木村義雄を書いたのか」
- 近藤周吾「将棋場と文学場の交差—木村義雄の人生観を契機として」
- 田丸昇「将棋と棋士をこよなく愛した作家の山口瞳への追想」
- 三浦卓「文壇ゴシップと詰将棋」
- 小谷瑛輔「日本の近代小説は将棋から始まった？」

また、将棋関連雑誌の目次情報や文学雑誌内の将棋情報など、本テーマで研究するための基礎情報をデータとしてWEBに公開し、広く利用され得るようにした。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

(ただし、図書に示したものに収録したものは除く)

- ①小谷瑛輔「芥川龍之介における「sentimentalism」、「サンティマンタリズム」、「センチメンタリズム」——「羅生門」、「葱」から「少年」まで」『芥川龍之介研究』第12号、2018年7月、pp. 3-16、査読有り

[学会発表] (計 25 件)

(ただし、「4. 研究成果」の項に示したシンポジウムにおける研究発表は除く)

- ①小谷瑛輔「日本の近代小説は将棋から始まった？」将棋と文学研究会、2018年11月18日
- ②小笠原輝「将棋界における食事情報の歴史」将棋と文学研究会、2018年9月9日
- ③椎名秀明「「将棋」と〈新規のメディア〉との親和性について」将棋と文学研究会、2018年7月22日
- ④木村政樹「1960-70年代における『アカハタ』『赤旗』の囲碁・将棋記事」将棋と文学研究会、2018年7月22日

- ⑤しらかばみつ子「観る将棋ファンからみる「月下の棋士」とその時代」将棋と文学研究会、2018年5月20日
- ⑥田代深子「「観る将棋ファン」の情報受容について」将棋と文学研究会、2018年5月20日
- ⑦小谷瑛輔「芥川龍之介「少年」の行軍将棋と〈sentimentalism〉」将棋と文学研究会、2018年3月11日
- ⑧中野綾子「慰問雑誌における将棋記事」将棋と文学研究会、2018年3月11日
- ⑨瀬尾祐一「商業専門誌上の「将棋」と「文芸」の融合に関する言説と、その背景」将棋と文学研究会、2018年1月7日
- ⑩けんゆう「新聞観戦記データベース作成について」将棋と文学研究会、2018年1月7日
- ⑪章瑋「芥川龍之介と将棋」将棋と文学研究会、2017年11月19日
- ⑫稲本力信「北條秀司「王将」論—盤上の阪田三吉について」将棋と文学研究会、2017年11月19日
- ⑬小谷瑛輔「将棋と日本近代の小説」山東大学威海キャンパス翻訳学院講演会、2017年9月19日
- ⑭小谷瑛輔「芥川龍之介「少年」の行軍将棋における存在論的虚構感覚—「サンティマントリズム」を視座として—」国際芥川龍之介学会第12回大会、2017年9月17日
- ⑮矢口貢大「戦中期における将棋と文学——雑誌『将棋世界』を中心に」将棋と文学研究会、2017年9月3日
- ⑯西井弥生子「西井弥生子「石本検校」の世界—菊池寛の将棋—」(『青山語文』2017年3月)合評会著者追加調査発表」将棋と文学研究会、2017年9月3日
- ⑰田丸昇「将棋の歴史とジャーナリズム」将棋と文学研究会講演会、2017年7月20日
- ⑱若島正「チェスと文学・映画」将棋と文学研究会、2017年7月15日
- ⑲山口恭徳「新聞将棋の始まりから発展へ」将棋と文学研究会、2017年5月20日
- ⑳本多俊介「愛棋家 坂口安吾—その生涯・作品と将棋、「木村三部作」を中心に—」将棋と文学研究会、2017年3月26日
- ㉑近藤周吾「文士・棋士・人生観—坂口安吾と小林秀雄、木村義雄と呉清源」将棋と文学研究会、2017年1月7日
- ㉒田丸昇「古今の文豪と棋士の交流—井伏鱒二、吉川英治から山口瞳、渡辺淳一まで—」将棋と文学研究会、2016年11月27日
- ㉓瀬尾祐一「将棋同盟社の諸相—団体と活字メディアとの関わりに注目して」将棋と文学研究会、2016年9月11日
- ㉔小谷瑛輔「将棋と文学の研究史」将棋と文学研究会、2016年7月10日
- ㉕矢口貢大「初期『将棋世界』と文壇の関わり」将棋と文学研究会、2016年7月10日

〔図書〕(計 1 件)

- ①小谷瑛輔監修『将棋と文学スタディーズ』将棋と文学研究会、2019年1月、総ページ数145

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www3.u-toyama.ac.jp/kotani/shogi/>

(ただし研究代表者の所属変更に伴い、下記URLに変更となった。)

<http://www.isc.meiji.ac.jp/~kotani/shogi/>)

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

(ただし本研究課題の申請時に「研究協力者」、「連携研究者」として記載を承諾済みの方のみを記す。研究会には、〔学会発表〕の項に記した方をはじめ、多くの方にご参加頂いた)

研究協力者氏名：田中 祐介

ローマ字氏名：TANAKA Yusuke

研究協力者氏名：中野 綾子

ローマ字氏名：NAKANO Ayako

研究協力者氏名：若島 正
ローマ字氏名：WAKASHIMA Tadashi

研究協力者氏名：木村 政樹
ローマ字氏名：KIMURA Masaki

研究協力者氏名：矢口 貢大
ローマ字氏名：YAGUCHI Kohdai

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。